

## 地震・津波災害軽減

多様な文書集めて  
アーカイブ作成を

### 仙台でシンポジウム開幕

「地震・津波災害軽減国際シンポジウム」が14日、仙台市青葉区の仙台国際センターで開幕した。国際協力機構などの主催。地震と津波に対する防災力の向上について、専門家が意見を発表した。

東北大災害制御研究センターの今村文彦教授が「東北地方における津波履歴と東日本大震災における津波災害の概要」というテーマで講演した。

文書や地層など過去の津波記録から長期的な予測ができることや、東日本大震災では防潮林が津波の勢いを抑制できなかったことなどを紹介。「減災に向けた情報を将来に残すために、さまざまな文書を集めてアーカイブを作る必要がある」と述べた。

15日は、インドネシアやチリなどで取り組んでいる防災プロジェクトの報告と、パネル討論が行われる。